

国語学から見た能楽伝書

《日時》2016年10月16日(日) 14:00～17:00 (開場 13:30)

《場所》法政大学市ヶ谷キャンパス ボアソナードタワー26階A会議室

事前申し込み不要・入場無料

14:00 「能楽伝書をデータベースを用いて読む」
豊島 正之 (上智大学)

14:50 「江戸の音声記述と能楽伝書との関係」
高山 知明 (金沢大学)

15:40 「謡曲の音声——現代と室町期」
坂本 清恵 (日本女子大学)

16:05 コメント
岸本 恵実 (京都府立大学)
白井 純 (信州大学)
竹村 明日香 (お茶の水女子大学)

◆主催/問い合わせ先◆

野上記念法政大学能楽研究所
能楽の国際・学際的研究拠点

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

TEL 03 (3264) 9815 FAX 03 (3264) 9607

豊島 正之

上智大学文学部教授、法政大学能楽研究所兼任所員、専門は中世日本語文献学。著書に『キリシタンと出版』（編、八木書店、日本出版学会賞受賞）、『天草版ラテン文典』（八木書店、カルロス・アスンサンと共著）等。論文に「キリシタン文典に見える「語根」に就て」（『国語と国文学』、93巻6号、2015）、「金属活字と文字の同一性」（石塚晴通編『漢字字体史研究』、勉誠出版、2012）、文献から言語音の歴史を辿るとは（上野善道監修『日本語研究の12章』、明治書院、2010）など。

岸本 恵実

京都府立大学文学部准教授、専門はキリシタン語学。論文に「日葡辞書の優劣注記を通して見た羅葡日辞書の日本語訳」（『国語国文』、84巻5号、2015）、「『羅葡日辞書』の錯誤と製作工程」（『京都大学国文学論叢』、20、2009）、The process of translation in Dictionarium latino Lusitanicum, ac Iaponicum（アジア・アフリカ言語文化研究、72、2006）など。

高山 知明

金沢大学人間社会学域教授、専門は日本語音韻史。著書に『日本語音韻史の動的諸相と蜷縮涼鼓集』（笠間書院、2014）、論文に「タ行ダ行破擦音化の音韻論的特質」（『金沢大学国語国文』、34、2009）、「破擦音化と母音体系」（『実験音声学と一般言語学』、2006）、「促音による複合と卓立」（『国語学』、182、1995）、「日本語における長音節の形成とその歴史的意味：とくに和語の促音、撥音について」（『日本語と日本文学』、16、1992）など。

白井 純

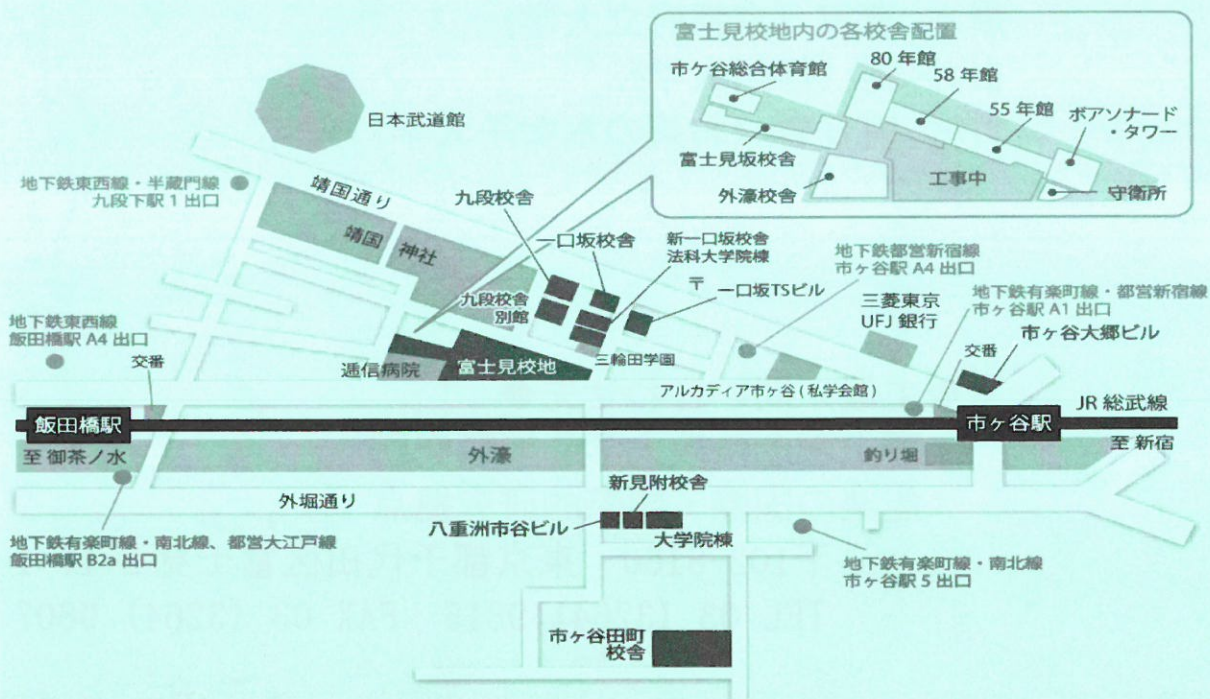
信州大学人文学部准教授、専門は印刷史・キリシタン語学。著書に『ひですの経』（折井善果等と共編、八木書店、2011）、論文に「原田版「こんてむつすむん地」の版式について」（『訓点語と訓点資料』、135、2015）、「キリシタン版の連綿活字について」（『アジア・アフリカ言語文化研究』、76、2008）、「中近世の印刷術」（『日本語学』、23、2004）など。

坂本 清恵

日本女子大学文学部教授、専門は日本語声調史・音韻史。著書に『中近世声調史の研究』（笠間書店、2000）、論文に「人形浄瑠璃にみる江戸時代の音声」（『日本語学』、34、2015）、「金春禅竹の胡麻章：施譜法とアクセント反映度」（『アクセント研究会「論集」』、10、2014）、「文楽における連声」（『国文目白』、52、2013）、「胡麻章の変容：声譜から句切り点へ」（『国語学研究と資料』、25、2002）、「世阿弥自筆能本からみたアクセント体系変化の時期について」（『国文学研究』、128、1999）など。

竹村 明日香

お茶の水女子大学文教育学部 助教、専門は日本語音韻史。論文に「九州方言エ段音節の再検討：中世日本語エ段音節の再構に向けて」（『日本語の研究』、9-2、2013）、「『日葡辞書』の開拗長音」（『国語国文』、81-3、2012）、「ローマ字本キリシタン資料のオ段合拗長音表記一抄物の表記との対照を通して」（『語文』、96、2011）など。



※校地内工事のため、市ヶ谷駅を利用し、三輪学園前の門からお入りください。